

一九四九年八月一日

東北新石器時代文獻要目

九四九年八月一日

東北新石器時代文獻要目

敬呈

恩水老師誨正

桂臣

前記

全國快解放了，今後各種學術配合社會的需要，將正常的迅速發展起來！所以史前學也是不能例外。為了建立起它的基礎，把已經發表的論文整理一下，纔便於學者們的檢索，也惟有過去全般概貌，纔能作進一步的研究。全國性的論文篇目志敏先生正在整理，而我整理的本篇，只是限於東北一帶我整理的幾點注意列下：

A. 此目以年代為順序，即按時間先後編排。

B. 此目分論文、單行本，西文三部，單行本、紀行書三類，西文則報告書、論文混合在。

C. 除按時間編排之外，更應按「屬於一個人的」或「遺物的」編排出來，因限於篇幅從略。

最後我整理此目，承瀋陽鐵路圖書館、中國醫藥科大、惠來子參考文獻之便，我很感謝，並且想像此中还有不少請世之先學教正。

一九四九年三月二日

柱月記於北平

東北新石器時代文献要目

一、論文

篇数 著者

論文

雑誌巻数

発行年

1 鳥居龍藏

遼東半島の石器時代

太陽

明治三〇
光緒三三
AD一八九七

2 〃

遼東半島のドルメン

〃

3 渡邊為吉

金州半島の土器

人類學雜誌二〇一四四五

三七
三〇〇

4 鳥居龍藏

遼東半島の石器時代遺跡と朝鮮の石器時代遺跡との關係に就て

〃 三二二六九

三九〇
三四〇
三四〇
一九〇八

5 〃

老鉄山遺跡

〃 二四一二七〇

〃

6 〃

老哈河本流地方石器跡

〃 二四一三五六

〃

7 〃

老鉄山の石塚について

〃 二四一四〇九

〃

8 古谷清

旅順發見石器時代遺物

考古界 七一〇

〃

9 鳥居龍藏

老鉄山の貝殼墓

人類學雜誌二五一二七

四二
三五
一九〇九

10 長谷部吉人

金州の遺跡と遺物

〃 二五一二八

〃

11 鳥居龍藏

南滿に於ける有史以前の民族

滿鐵調查科

四三
一九〇

12 島村孝三郎

大連新石器時代の遺跡

〃

〃

13 〃

〃

〃

〃

14	八本長三郎	南滿洲最古の集民	人類學雜誌三七一—三二〇	一九二二
15	鳥居龍藏	吉林省のチヤシと堅穴	三八一—三二二	一九二二
16	ノ	陳蒙古達拉民安の古城址及び其附近の遺物蒐集に就て	三六一—三六一	一九二二
17	筭業昌 門	滿洲考古學的旅行	三六一—三六一	一九二二
18	大野雲外	滿洲と蒙家古の有史以前	氏著古代日本遺物遺跡の研究 中收	一九二五
19	鳥居龍藏	魏子寧の土器	氏著有史以前の日本中收	一九二五
20	濱田耕作	魏子寧の土器	氏族 二一六	昭和二 一九二七
21	島田貞彦	魏子寧の土器	氏族 二一六	昭和二 一九二七
22	森 修	關東州の古蹟村会大台山遺跡	考古學雜誌二七一—二七五	一九二七
23	青野謙次	關東州の古蹟村会大台山遺跡 古蹟時代の遺跡	氏族 三一四	一九二七
24	鳥居龍藏	滿洲原始民族 考古學的的研究	氏族 三一四	一九二八
25	青野謙次	滿洲旅行記事の断片	氏著日本石器時代人類研究 中收	一九二八
26	濱田耕作	旅順石塚の土器	人類學雜誌四一—三二九	一九二九
27	梅本俊次	滿洲考古資料録話	滿蒙	一九二九
28	ノ	鞍山地帯有史以前の遺跡遺物	ノ	一九二九
29	ノ	滿洲の古蹟時代の遺跡の型式と所産	ノ	一九二九
30	ノ	考古學雜誌五〇—一〇一	ノ	一九二九

梁 思永

濱田耕作

桑 志 華

樋口清之

山 本 正

久原市次

エリサベ著

松本信廣譯

小牧 吳 繁 等

梁 思 永

鳥 岩 龍 藏

三 宅 俊 成

江 上 波 夫

水 野 清 一

鳥 居 龍 藏

水 野 清 一

熱河查子廟林西双井赤峰等處所採集之新石器時代石器母陶片

旅順石塚發見土器の種類に就いて

壺一東亞古代土器概説
六 統子高の土器

關於天津北疆博物院之古生物學考古學事業

南滿洲石器時代土器に關する二三の事實に就いて

南滿洲のドルメンとその方位

天津北疆博物院に代表されし新石器時代の遺跡

蒙古の倫理に於ける新石器時代の遺跡

張家口石器時代の遺跡

昂々溪史前遺址

ドルメンに就いて

長江の史前遺跡

石器時代の東南蒙古

鄭表屯北砂丘地帯の遺跡

朝鮮滿洲の海製石器に就いて

田野考古報告第二冊 民國一九一

氏著東亞考古學研究中文 一九二〇

考古學論叢卷二 六 一九三〇

考古學雜誌二二一 一九三〇

歴史と地理二八 一九三〇

人類學雜誌四六一二四 一九三〇

四六一八 一九三〇

四六一三九 一九三〇

中研院歷史語言研究所 集刊四本一分 民國二二

ドルメン創刊號 七 一九三二

郷土第四號 一九三二

考古學雜誌二二一四五 一九三二

人類學雜誌四七一三〇 一九三二

古代文化 八 一九三二

一九三二

一九三二

46	三上成男			
47	島村孝節	老翁山麓の石斧の南東府博物館の創立より	人類学雑誌	四九一
48	梅本俊次	考古学より見たる鞍山	顯彰	
49	江上波夫等	旅順双台子新石器時代遺跡	人類学雑誌	四九一
50	三上次男	吉林團山子の遺跡		四九一三五
51	駒井和愛	吉林寧安縣附近三壘屯の石器時代遺跡	考古学雑誌	二四一
52	梅本俊次	鞍山中学歴史研究室蒐集品目録	研究要報第一輯	
53	水野清	滿蒙新石器時代要論	考古学	五一八
54	直良信夫	北滿の考古学者ルカ・シキニ代を語るトルメン		三一〇
55	島田真彦	滿蒙水の石器時代		四一六
56	八幡一郎	滿蒙新石器時代要論批評	人類学雑誌	五〇一四
57	水野清	塊状多頭石斧—南滿洲の石器		五〇一五
58	樋口清之	南滿洲石器時代石斧の遺物形態学的研究	古代文化	七
59	濱田青陵	熱河赤峯道記	考古学	六一八
60	駒井和愛	濱江省三壘屯の石器	考古学雑誌	二四一八
61	八幡一郎	朝陽附近の新石器時代遺跡		二六二二

一九三三
一九三四

一九四〇
一九三五

一九三一
一九三二

62 辻上波夫 蒙古考古學 蒙古年鑑

63 駒井和愛 石器時代蒙古の石皿と其の系統 調査月報五一号

64 三宅俊成 長山列島先史時代の小調査 滿洲學報第四

65 水野清一 駒井和愛 石砦嶺と鉄炭 人類學雜誌五一〇

66 濱田耕作 赤峰附近發見の亮形彩文土器 考古學雜誌二七一

67 赤堀基三 三上次男 大廟(熱河省西北部の先史遺跡) 二七一五

68 戸田寛 撫順永安公園附近に於ける石器及土器類の分佈状況 滿洲史學一一二

69 小林知生 撫順の古文化 考古學雜誌二七一〇

70 田口稔 滿洲に於ける巨石遺物の地理的分佈 地理學 五一六

71 森修 二箇と二鈴 遼東半島に於ける先史時代遺物 考古學 八一七

72 島田貞彦 滿蒙の石器時代 歴史公論六一一

73 〃 滿洲考古學界の近況 六〇八

74 三上次男 フルンブイル地方の考古学的遺跡 蒙古學第一冊

75 三宅俊成 復州城及長興島史蹟調査記 滿洲史學一一三

76 李文信 吉林龍潭山遺跡報告 一〇三

77 山田文英 延吉郊外大嶺遺跡に於ける石器及石棺 一一三

二二
二六
二七
二七

二二
二七
二七
二八

三宅俊成

熱河省の先史時代の遺物

二二二

78 齋藤武一

撫順永安公園遺跡

二二三

79 島村孝三郎

赤峰四道井子の遺跡

二二四

80 小林知生

熱河承德附近の新石器時代遺跡

二二五

81 鬼玉重雄

北滿海拉不附近新石器時代墳墓發見遺物

二二六

82 島田貞彦

赤峰先史時代の問題

二二七

83 水野清一

赤峰紅山後先史土器の技術的観察

二二八

84 磯松嶺造

土器口縁部指頭壓痕に就て

二二九

85 鬼玉重雄

盃狀土器に就て

二三〇

86 丸岡良郎

熱河出土製紡錘車形態に就て

二三一

87 丸岡良郎

鋸齒狀石及に就て

二三二

88 丸岡良郎

南熱河に於ける新石器時代遺物概観

二三三

89 島田貞彦

熱河西南部先史時代遺跡表

二三四

90 寺岡康

先史時代の南滿洲

二三五

91 寺岡康

メソヒルと日鮮滿の關係

二三六

92 鬼玉重雄

南熱河に於ける新石器時代遺跡

二三七

93 鬼玉重雄

南熱河に於ける新石器時代遺跡

二三八

109	108	107	106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96	95	94
三上次男	小林行雄	齋藤才太郎	奥田直榮	梅原末治	鬼玉重雄	島田貞彦	奥田直榮	島田貞彦	駒井和愛	鳥居龍藏	八幡一郎	奥田直榮	三上次男	八幡一郎	島田貞彦
滿洲國奉天省撫州城丸連洞遺跡に就て	新泉發見の鐵形石器	ノモハニ通信	鏡泊湖畔の先史學的調査報告書	日韓兩國史前末期の急劇に於いて	熱河省承德縣赤和の一遺跡に就いて	北滿史前文化概論	北方の先史學的懸念	北滿の石器時代文化に就て	北滿洲の石器時代文化に就て	遼の中京鐵內に存在する石器時代の遺跡	滿洲國境内外附近發見の遺物追加	北滿松花江沿附近發見の遺物	滿洲國吉林國山子の遺跡	滿洲國境内外附近發見の遺物	遼東州望海城石蓋時代遺跡の發見
考古學雜誌 三〇〥〇	考古學 一一〥九	考古學雜誌 五五〥三 彙報中	大陸科學院彙報 四〥二	東洋史研究 五〥五	滿洲史學 三〥二	〥〥〥	世忠 一〥二	滿洲史學 二〥四	大陸學先史學講座 一〥二	〥〥〥	〥〥〥	〥〥〥	〥〥〥	〥〥〥	〥〥〥

九〥〥

125 124 123 122 121 120 119 118 117 116 115 114 113 112 111 110

奥田直榮

鏡泊湖に先史遺跡を探検して

現光東亞

七二九

〃

駒井和愛

熱河省承德附近伊得廟台地出土の遺物に就て

人類学雑誌

五六二

〃
五二〇

森 修

滿洲石廬丁族

〃

五二二

〃

三上次男

滿洲國接順右蹟調査概説

考古学雑誌

三一七

〃

三宅宗悦

滿洲國熱河省葉柏新附近の遺跡に
ついて

〃

三二二

〃

藤田亮策

黒陶之壺

現光東亞

〃

〃

島田貞彦

大長山島貝塚發掘記

〃

八二八

〃

駒井和愛

熱河省義州附近の遺跡

上野師録

〃

〃

佐竹伸七

吉杯附近石器時代段々遺跡に就いて

太古藝

一三四

〃

森 修

南東州石斧の形式

古代文化

一三四

〃

丸茂武重

滿洲出土怪人面考

〃

〃

〃

森 修

南東州の石劍と石槍

〃

一三二

〃

水野清一

赤城金石期文化のふいごの口

人類学雑誌

五二一

〃

島田貞彦

滿洲の考古

史蹟名勝天然紀念物

〃

〃

奥田直榮

滿洲の細石器文化

北窓

五一四

〃

前田俊雄

滿洲に於ける巨石遺物

現光東亞

一〇一

〃

141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131	130	129	128	127	126
	佟柱臣	シ	シ	シ	島田貞彦	佟柱臣	梅原末治	奥田直崇	廣松健二郎	三上次男	佟柱臣	兎玉重雄	佟柱臣	森常雄	齋藤武一
	赤峰城居住址に就て	關東州の古代文化	滿洲考古學の趨勢	滿洲のドルメン	黒陶白陶	熱河先史文化河赤峰紅山	關東州史前文化所見	北滿昂々溪發見細石器包含層	新京附近大屯一中部滿洲新石器時代遺跡	熱河省古山駅附近の石器時代遺跡	凌源牛梁彩陶遺跡	熱河省の考古學調査研究の一端	凌源新石器時代遺跡考察	熱河の遺跡と遺物	熱河の古代文化と遺物跡
	人類學雜誌六〇—二	シ	シ	シ	氏著 冠蓋中收	盛京行報	東亞考古學論攷中收	シ	人類學雜誌五九—二	考古學雜誌 三二—四	建國教育	シ	熱河	シ	旅行雜誌 一〇—二
	一九四五	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	一九四四	一九四三	シ	シ	シ	シ	シ

人類學雜誌 六〇—二
一九四五
民國三三

142 李文信 吉林省通志之史蹟及遺物

歴史考考古第一号 三五

143 裴文中 中国細石器文化略説

燕京学報三二期 三六

144 楊公驛 西園山史前文化遗址初步發掘報告

東北日報 民三六二二

145 佟柱臣 東北自然環境史前文化區論
東北新石器時代

金靜庵先生六十歳紀念論文集 三八

補

1 鳥居龍藏 滿洲人種学研究

大正三三?

2 畢任庸 遼蒙考古録

人文月刊 民一七?

3 久原市次 分水のドルメン

滿洲日報 民一七三

4 シ 南滿洲のドルメンに關する一考察

滿蒙地理歴史第三号 民一七八

5 榎本龟次郎 滿洲の文化を語る

考古学 八一ニ 民一八二

6 田中克雄 奉天考古日誌抄

書香八五号 民一八九?

7 島田正一郎 熊岳城温泉附近の土中文化

考古学雜誌三四一五 民一九三

8 澤田四郎 熊岳城温泉附近の上代文化の遺物に就て

油印本 民一九三

9 田鳳章 原始時代東北居民与中国之關係略識

禹貢半月刊七一五 民一九三

10 八幡一郎 熱河の先史時代遺跡

地理学公報論一〇一 民一九三

12 鳥居龍藏

東蒙古原始民族の研究

13

シラムレン流域及び奥安奉方面に於ける東胡民族の遺跡

地学雜誌二十二年二五六―二五八号

二、單行本

A. 報告書

1 鳥居龍藏

調査報告書

明治三十八年(光緒三十二年)二月九日之官報

2

南滿洲調査報告

明治三十四年
宣統二年
A四九二

3 安特

奉天錦西縣沙鍋屯遺穴

中國地質調査所

民二二

4 八本樊三郎

滿洲舊蹟志

滿洲鐵道株式會社

大正一三
民二二

5 濱田耕作

貔子窩

南滿洲碧流河畔の先史時代遺跡

東方考古學叢刊第一冊

昭
民二二
一四九四

6 八幡一郎

熱河省南部の先史時代遺跡及遺物

第二次滿蒙學術調査研究
究報告第六部第一編

昭
民二二
一九四九

7 児五重雄

熱河省承德近郊出土遺物報告

單行本

昭
民二二
一九三五

8 濱田耕作

赤峰紅山後

東方考古學叢刊甲種六冊

昭
民二二
一九三八

9 藤田亮策

延吉小營子遺跡調査報告

昭
民二二
一九二七

10 八幡一郎

熱河省北部の先史時代遺跡及遺物

第二次滿蒙學術調査研究
究報告第六部第三編

昭
民二二
一九四〇

11 島田貞彦

考古學より見たる熱河

偽清文教科

昭
民二二
一九二七

12 三浦大祐

水野龍溪

東方考古學會刊之種々

昭
民二二
一九三三

13. 鳥居龍藏 望海稿

羊头窪附録

14. 八木榮三郎 増補滿洲考古学

荻原星文閣

B. 概論書目

1. 立花政一 郎 南東川原始拾遺

大阪屋号

2. 駒井和愛等 東洋考古学

平凡社

3. 原田淑人 滿蒙の文化

東洋思潮社

4. 三宅俊成 滿洲考古学概説

滿洲事情素内所

5. 小牧實繁等 世界文化史大系 第一卷 先史時代

滿洲事情素内所

6. 旅順博物館 旅順博物館陳列品解説 史前部

滿洲風土記社

7. 高橋匡四郎 考古歴史篇

滿洲日報社刊

C. 紀行書

1. 鳥居龍藏 蒙古旅行

博文館

2. 鳥居龍藏 滿蒙の探查

萬里閣書房

3. 西伯利亞から滿蒙へ

大阪屋書店

4. 鳥居君子 土俗學上より見たる蒙古

六文館

5. 鳥居龍藏 滿蒙を再び探る

六文館

民昭 一九四四

民昭 一九五五

民昭 一九三三

民昭 一九三三

民昭 一九三三

民昭 一九三三

民昭 一九三三

民昭 一九三三

民昭 一九三三

民昭 一九三三

民昭 一九三三

民昭 一九三三

民昭 一九三三

民昭 一九三三

6 鳥居龍藏

滿蒙其の他の思ひ出

四十一年前の滿洲に於ける人類學と考古學

岡倉書房

一九二一

7 夢野蒼天

蒙古高原補断記

東亞考古學會

一九二二

8 水野清

北滿風土雜記

改造社

一九二二

9 米内山庸夫

蒙古草原

附地圖

三 皂俊成

關東州史蹟會

一九二五

三 西文

1. R. TORII ET KIMIKO TORII. Etudes Archeologiques et Ethnologiques

Populations primitives de la Mongolie Orientale. (東京帝國大學理科大學紀要. 36冊4編) March 29th. 1914.

2. R. TORII, Etudes Archeologiques et Ethnologiques. Populations prehistoriques de la Mandchourie Meridionale. (全上36冊8編) October 21st. 1915.

3. E. I. TITOV and V. J. Tolmacheff's Remains of Neolithic age in the vicinity of Hailar Harbin. 1923.

4. J. G. ANDERSSON: An Early Chinese culture Bulletin of the Geological Survey of China. ~~part~~ No. 5. part I 1923.

5. E. Picent & P. Teilhard De Chardin; *Nota Sur deux instruments Agricoles des Neolithiques de Chine*. *Éanthropologie*, t. XXXV, 1925.
6. J. G. Andersson; *Origin and Aims of the Museum of Far Eastern Antiquities—Tiao*. *The Museum of Far eastern Antiquities*, Vol. I, No. 2, 1929.
7. A. S. Loukaichin; *New Data on the Neolithic Culture of Northern Manchuria*. *The China Journal*, Vol. XV, No. 4, 1931.
8. J. G. Andersson; *The Cave-Deposit at Sha Hsu Tun in Fengtun, Palaeontologia Sinica, Series, D, Vol. 1, Fascicle 1, 1932.*
9. E. Laurent; *Un collection Neolithiques du Musée Honang Ho Pat Ho de Tim Tim 1932.*
10. V. V. Ponomarev; *Agriculture and Cattle Breeding in North Manchuria the Stone age, period* (大陆科学院集报 1-3) 1937.
11. V. V. Ponomarev; *prehistorial culture of the Eastern Manchuria*. (大陆科学院集报 2-3) 1938.

代 替 抄 寫
四十册中之第九號